

## みうらトーク&トーク 第4弾

日 時 平成19年8月20日（月） 14時00分から15時00分

参 加 者 三浦臨海高等学校生徒 8名、市側 5名

テ ー マ スカベンジについて

団 体 三浦臨海高等学校

団体の紹介 三浦市にある唯一の県立高校、恵まれた自然と自由な環境の中で主体的に学び、国際的な視野と豊かな心をもって自らの夢を実現する人の育成を掲げている。



内 容

資料に基づき説明（環境部）

意見交換

（市 長） 近年、どこの自治体も環境問題については、力を入れています。この三浦市は、海水浴場など公共の海岸が多く、スカベンジ活動を行う場として適しています。

残念ながら都会に比べてゴミが捨てやすい環境になっていますので、何とかしなければならぬと考えています。

見た目に汚いところには、ゴミを捨てやすいという傾向があります。

例えば市内は、山林、谷戸等人目が届かない場所が多く歩いていても道端にビニール袋が落ちているのをよく見かけます。

ゴミを捨てることをためらうようなまちづくりをするために考え出されたのがクリーンアッププロジェクトの主旨です。

三浦市はスカベンジの活動として今まで多くの民間企業とも連携してイベントを開催してきましたし、民間企業に対して“いっしょにゴミ拾いをしませんか”という働きかけも行っています。民間企業の社会貢献活動と地域環境活動をマッチングさせることが出来な

いかということで行っているのが、現在、行っているスカベンジイベントです。

幸い、市内の地域の方たちは、自分たちの住んでいるところをきれいにすること  
を普段から当たり前のように行ってくれています。それを市当局でもきちんと受け止めて、  
まちをきれいにしようという運動を地域全体で盛り上げていこうというのがクリーンアッ  
ププロジェクトの目標です。

本日は、日頃高校生として、皆さんが感じている率直なご意見を頂きたい。

(市長) コンビニで、物を買って道端にゴミを捨てていくという話も良く聞きます。ゴミ箱を多  
くするのも一つの手だと思いますが、モラルの低下でそのゴミ箱に家庭のゴミまで持って  
くる人もいますので、やたらに設置することも出来ません。

一人ひとりが環境のことを考え、ゴミを出さない、ゴミを持ち帰って分別するという意  
識が必要だと思っています。

(臨海) 実を言いますと「スカベンジ」という言葉は、あまり聞きなれない言葉だと思います。  
この表現がまだ広く市民に浸透していない気もするのですが、具体的に市は何を行っている  
のか教えてください。

(市長) 資料の中にある3つのキーワード『ネットワーク・エンターテイメント・協働』を基本  
にプロジェクトを進めています。民間企業へは、社会貢献活動として行っていただくよう  
にお願いしています。市の職員が民間企業と一緒にスケジュール作りをしたり、楽しんで  
行えるような企画の相談にも応じています。また、当日実際に市の職員が参加もしますし、  
回収したゴミの処理も行っています。ゴミ袋や軍手などは、企業側でも用意してくれてい  
ますが、市の方でも用意しています。

確かにスカベンジという言葉は、聞きなれない言葉です。頻繁にホームページなどで紹  
介していますが、なかなか浸透していない状況です。少しずつですが、浸透させていき  
たいと考えています。

(臨海) スカベンジでゴミを拾うことももちろん大切ですが、捨てさせないための工夫や方法も  
考えた方が良いと思います。

(市職員) たしかに、拾うことも大事ですが、捨てにくい環境づくりが必要だと思います。

先日、三崎口駅周辺にゴミが散乱して、すごく汚かったことがありました。駅を利用す  
る方が三崎口周辺のコンビニで物を買って、その袋などを捨てているのだと思います。

物を買って食べながら歩くのは分かりますが、食べ終わるとそこにゴミを捨ててしまう  
というのは大変、残念な状況です。みなさんの若い考えで何かあれば教えて頂きたい。

(市 長) ゴミは、当然出ますが、それをゴミとして処分してしまうか、再資源化するかが大切な視点だと思います。現在の社会では、あたり前に物が買え、あたり前にゴミが捨てられる風潮があります。ゴミの減量化のためには、ポイ捨ての罰金やゴミの有料化などは、効果があると聞いています。

例えばゴミの有料化では、県内では大和市が行っています。大和市のゴミの有料化というのは、ゴミ袋を 50 円や 100 円を買ってそのゴミ袋でゴミを捨てるということです。大和市では、さらにゴミのステーションだけでなく家の前にゴミを置いておけば回収するというサービスを行っています。

しかし、ゴミの有料化導入については、三浦市としては、大きな議論が必要なところだと思います。市民の方は、税金を払っています。市は、全部ではありませんが税金で事業が成り立っています。税金を払っているのに、また別に料金が掛かるのかと問題が生じ、これでは税金の使いかたを問う根本的な議論になってしまうからです。

今の私の考えでは、ゴミを有料化することには、踏み込むべきではないと思っています。しかし、ゴミを出すのにお金がかかれば、みなさんも出費を抑えるためにゴミを出すのを控えるようになると思います。

(市 長) みなさんも物を買えば必ずゴミが出ますが、その時、どうしていますか。

(臨 海) ゴミ箱があれば、ゴミ箱に捨てますが、ない場合には道端に捨てたこともあります。

(市 長) 私自身も、以前は、ゴミに対する意識が今より低かったと思います。

今では、捨ててあるゴミが気になるようになったし、まちをきれいにする思いが大きくなりました。ゴミを捨てないための意識を自分自身に植えつけることが大切であると思います。

今回、みなさんは、このような話をする機会を持ったことでゴミに対する意識が高まったと思いますので、もう明日から絶対にゴミをポイ捨てできないと思いますよ。学校に戻って、他の人達にも意識をもってもらえるよう呼びかけをお願いします。

(臨 海) 分かりました。

(臨 海) 以前に比べると市内の公園などゴミを捨てる場所が少なくなったように感じますが。

(市 長) 現在、京浜急行や JR など駅構内からゴミ箱を撤去してしまっています。

(市 長) 市の方で、なぜ、設置しないかという、モラルが低下し、そこに家庭のゴミを捨てる人がいるからです。市でもゴミ箱を設置すれば良いのですが、管理するコストや分別の問題が出てきます。

(市 長) 現在、三浦市のゴミの分別は15通りあります。みなさんは、学校や家でゴミを捨てる時に気を付けて分別していますか。

(臨 海) 気を付けて行っています。

(市 長) たとえば、ペットボトルの捨て方を知っていますか。

(臨 海) 臨海高校の生徒は、ほとんど分かっていると思います。

(市職員) みなさんは、日頃、コンビニ等で買い物するときの袋をどうしていますか。例えば、買い物用のかばんを持っていくとかなるべく袋を貰わないなど何かしていますか。

(臨 海) かばんの中に入る場合などは、袋を貰わないようにしています。

(市 長) 私たちが普段購入しているものの中には、ひとつの商品に4種類以上の異なる分別が必要なものもあります。たとえ面倒でもきちんと分別するそんなことから意識付けを行うことが、大切だと思います。分別については、ホームページなどでも掲載しています。

(臨 海) 臨海高校でも、校内のあちこちに、分別する種類別のゴミ箱を用意してあります。

ですが、臨海高校には横須賀市や横浜市から通っている生徒もいます。ゴミを捨てる時に三浦市の分別のルールが分からないケースがありますので、もっと細かい分別表があると分別に迷うこともないと思います。

(市 長) 臨海高校用に分別表を直ぐに用意します。

(臨 海) 校内のゴミ箱のところに、その分別表も置いておけば効果があると思います。

(臨 海) 小学校や中学校にも配れば良いと思います。子どものうちからゴミに対する意識をもたせることは、とても良いことですし、親子でゴミについて話しあうことも出来ます。

(市 長) 良い提案だと思います。確かに、子どもに意識を持たせることは、その子がいずれ大人になるわけですからたいへん効果があると思います。家庭内のゴミ分別についても家族全員が意識を持って行うことが重要だと思っています。

(市 員) 昨年、スカベンジに約1,700人参加してもらいました。小さい子どもから高齢者まで多くの方に参加をしてもらいました。小さい子が一生懸命ゴミ拾いを行っていました。その時、感じたのは、小さい頃からゴミ拾いを経験し、ゴミ拾いの大変さを知って育った子どもは、大きくなってもゴミを捨てないと思いました。先ほど、拾うだけでなくという意見もありましたが、拾うことでも効果はあると思います。やはり、そういう体験をしてもらうことで意識を持ってもらうことが大事だと思います。

(臨 海) 市内のスカベンジ関連のイベントの情報が学校にはなかなか伝わってこないので、イベ

ント開催の際のポスターを提供してもらえれば、他の生徒に参加を呼びかけられるのですが。

(市職員) スカベンジ開催時には、ホームページでも募集を行っています。ポスターについては、難しいので、それに変わるものを作って学校の方に提供します。

(臨 海) いただいた資料の中で昨年、実施したスカベンジイベントの一覧表の中に自治会の清掃活動は明記されていませんが、どうしてですか。

(市職員) この表は、誰でも参加していただけるスカベンジイベントの一覧表で自治会の清掃活動は、記載されていません。自治会の清掃活動は毎年、約370回行われています。

(市職員) 先ほどの分別表が用意出来ましたのでお渡しします。分別表と五十音順になっている表です。これを見ていていただいて、ここに載っていないものや不明な点があれば、市の方に連絡いただければお答えします。

(市 長) ゴミを処理するのには膨大な費用がかかります。ゴミを分別することによって、再資源化や焼却や埋め立てが出来ますのでご協力をお願いします。

(臨 海) 臨海高校では、生徒の自主的な活動としてはボランティア委員会が中心となり校内外のゴミ拾いを行っています。今後、ボランティア委員会以外の人にも広く参加を呼びかけゴミ拾いを行いたいと思っています。

(市 長) 学校全体の雰囲気作りも重要だと思います。昨年、関東学院大学の環境サークルHEP（ヘップ）が三崎小学校で講演を行っています。みなさんより少し年上のお兄さんやお姉さん達です。HEP（ヘップ）には、市の方から連絡を取りますので臨海高校でも行ってもらってはどうか。

(臨 海) わかりました。

(市 長) さらに、今後、臨海高校としてどのようなスカベンジ活動が可能であるか、具体的な計画を立てていただきたい。生徒会が主催でも良いので何か大きなイベントを開催してもらいたい。

(市 長) 例えば、臨海高校周辺でも結構ですし、臨海高校から三崎口駅の間の通学路を歩きながらや三崎口駅の周りなども良いと思います。そのときは、PRなども含め市の方でも協力します。今年であれば、いつごろできますか？

(臨 海) 文化祭が終わった後の11月頃が良いと思います。

(市 長) せっかくこのような機会があったので、是非、行ってもらいたい。今後、先生を通じて連絡を取っていきますのでよろしくお願いします。

(事務局) 本日は、お忙しい中、貴重な意見をありがとうございました。今後ともよろしくお願い  
します。これでトーク&トークを終了します。

※ 団体名の公表については、了解を得ております。